

令和5年度

学校関係者評価委員会 報告

あけぼの幼稚園

令和6年1月24日(水)9時30分～12時

出席者 評価委員・園長・副園長 計8名

実施内容 令和5年度自己評価に対する意見聴取

今後取り組むべき課題の精査

◆自己評価に対する意見聴取まとめ◆

<安全管理>

災害時備蓄品

(評)携帯トイレをはじめ災害時の備えに関して十分な対応。野菜ジュースに関してはより多くの子どもが飲用できるように他のものに変更希望。

→(園)今年度園児一人一人の災害時携行品を備蓄、保護者より高い評価。野菜ジュースは、次回入れ替えの際には他の選択肢を検討予定。

防犯

(評)園内だけでなく、公園など園外での連れ去りに対しても指導範囲の拡大を希望。

→(園)園外での防犯・交通安全に対する意識向上をはかるべく、職員による劇や紙芝居など実施しているが、保護者の意識向上も促せるよう、各地域発生 of 防犯情報を迅速に共有できる「メールけいしちょう」などのツールについて情報提供の実施。

<保育の質の向上の為、研修等の積極的参加・園内研修の実施>

(評)パネルシアターなどお誕生会の多様な取り組みについて、園児にも高評価。

→(園)園内研修を実施、パネルシアターでの見せ方演じ方がより一層園児が楽しめる形に向上。

<特別支援教育>

(評)療育に通う子どもの数は一般的に近年増加傾向。就学までの流れについて、就学前健診だけでなく、特別支援学級や通級(すまいる)の利用に必要な「就学相談」についても、(受けて特別支援学級等を勧められた場合も行くか行かないかは保護者の判断であることや年長秋頃から大変混みあうため早めの相談が望ましいことなど)情報提供を希望。

(評)就学相談の存在自体知らない保護者が大多数。

→(園)療育機関に通っている園児については療育機関の担当者と連携をはかり子どもの育ちを見守っており、保護者も就学相談について適切な情報を有していると認識。ただ療育自体空気がなく通うことができない場合もあるため、不安のある保護者が就学相談について認識できる機会を設定。発達への心配については保護者の考え方も様々なことから個別ではなく、年中3学期の保護者会などで全体にむけて就学相談を含む世田谷区の制度について情報提供できるよう検討。

◆今後取り組むべき課題◆

<災害時対策>

(評)非常食を実際に食べる、携帯トイレを利用するなど備蓄品を実際に園児が使用する機会の検討を希望。

(評)炊き出しなど地域の力を借りて練習するのも検討材料。

→(園)実際におにぎりを食べてみたところ、園児にはスプーンも必要と判明。園の評価委員を兼任いただいている民生委員の方と今後相談の上、災害時に役立てるよう検討。

<保護者または地域への情報発信>

(評)延長保育の充実により幼稚園も検討対象とする保護者が増えている傾向。保護者に入園後も相違なく幼稚園生活を送ってもらえるよう、幼稚園は教育機関であり、例えば保護者への伝言は教育の一環としての練習であることなど、保育園とのカリキュラムの違いを入園前に周知することが大切。

→(園)家庭と一緒に子どもを育むという幼稚園のあり方を、入園前説明会でも周知するよう検討。

(評)他学年の交流機会があるようなので、感染症発生時には学年ごとのホワイトボード掲示ではなく、れんらくアプリでの全学年への情報提供を希望。

→(園)コロナ当初危惧された犯人捜しや非難といった事象につながることはないように、まずは保護者会で保護者の了承を得てから実施する等、今後慎重に対応。

以上